

9 大会主題

「読み解き対話する力を育てる教育」

情報通信技術や人工知能の発達をはじめとする技術革新の加速度的な進展、経済や社会のグローバル化、新型コロナウイルスの感染拡大など複雑で予測困難な時代になっている。こうした時代にあっては、自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造していくことが大切である。

人口知能がいかに進化したとしても、感性や思いやり、慈しみの気持ち、思考する目的のよさ・正しさなどを判断できるのは人間の最も大きな強みである。このことを再認識し、知識・技能、思考力・判断力・表現力等を基礎基本として、自己の主体性を軸にした学びに向かう力や人間性等を育む教育を重視する必要がある。

特に、文章や図表等から必要な情報を正確に取り出して理解し、論理的思考を行うための説得力や、多様な人々と協働して思考・判断・表現を深める対話力等の能力など、読み解き対話する力を育てることが重要である。また、科学的に思考・吟味し活用する力や価値を見つけ出す感性と力、新しいものや変わっていくものに対する好奇心・探究力、実践から学び自信につなげていく力なども必要である。

それには、あらゆる他者の多様性を認めて互いを思いやり、相手の意図や思いを読み解くことによってより深く理解し合うことが大切である。対話する力の育成では、自己内対話や自然・ものとのかかわり、他者との対話などの機会を広げていくことも必要となってくる。

「人生100年、生涯学習の時代」と言われている。この時代を生きていくためには、自らの将来を見通し、生涯学び続けることが求められる。学びは自らのもの、主体的な活動である。自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって課題に粘り強く取り組み、主体的な学びの実現を目指さなくてはならない。

しかしながら、学校教育の現状を見ると、学ぶ意欲やチャレンジ精神、豊かな感性や思いやりの心の育成、自己内対話、多様性を受容する力の発揮など、人間関係の在り方や自己肯定感の高揚に課題が生じている。

私たち学校教育に携わる者は、確かな子供理解を深めながら、体験的な活動を重視し、主体的・対話的で深い学びを充実させ、次のような教

育を積極的に推進することが大切である。

幼稚園・こども園では、一人一人の児童が生活や自発的な活動としての遊びを十分楽しみ、充実感を味わえるようにする。そのために、多様な人や自然・もの等に関わる中で直接体験したこと、感じたこと、疑問に思ったことなどを言葉で表現できるようにし、対話による交流等を通して互いを思いやる態度を育てる。

小学校では、各教科等において必要な情報の正確な取り出しや比較・関連付けた読み取りの学習を通して、主体的・創造的に自己実現し対話する力を育てる。教育活動全体を通して、実体験や他者との対話・協働などの多様な学習活動により、学びに向かう力や豊かな感性、探求力を育てる。

中学校では、各教科、特別活動等において情報の読み取りを通して、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力を育てる。また、多様な他者と対話しながら協働することを通して自分の考えを広げ、自分のよさや努力に気付き自己肯定感を高めながら新しい価値に挑戦する意欲的な生徒を育てる。

高等学校では、様々な背景をもつ他者と協働し、これまで直面しなかった課題に向き合い調整する力を育成する。また、文章や図表を含め、社会が発する情報の意図を正しく評価し読み解くことや学科・コースの特色ある教育課程を活用した学びにより自身との対話を深めることで、社会の形成に主体的に参画する力を育成する。

特別支援学校では、将来の社会自立に向けて、児童・生徒が自ら考え、判断し、行動できる力を培う。個々の特性に応じた学びに向かう力や人間性を育む教育を基盤として、日常生活や社会生活の中で直面する事態の理解や、相手を意識し気持ちや考えを伝えていく中で、論理的に考える力を育てる。

家庭・地域社会では、本来の教育機能を発揮することの重要性を踏まえ、家庭の絆や地域づくりに一層努めるとともに、家庭や学校、地域社会との連携及び協働を深める。また、社会教育との関連を図り、社会教育施設の積極的な活用や多くの住民の主体的な参加を得るなどして、豊かな人間性とよりよく生きる力、主体性を軸にした学びに向かう力を育むようにする。